

## 2 提案する五つの授業モデルの概要

### (1) 授業モデル1(小学校3年)

習熟度別少人数学習における「担任教師とマイタウンティーチャーとの共通理解を促進する指導体制の工夫」と「児童の適切なコース選択のための支援」についての提案 <課題1、課題2の解決例>

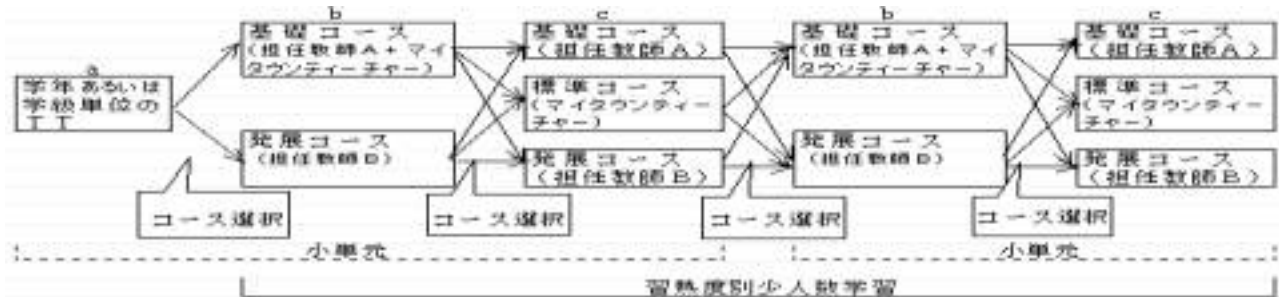


図18 授業モデル1における指導体制の工夫

#### ア 解決を図る課題

- 習熟度別少人数学習をマイタウンティーチャーやボランティアティーチャーと一緒に実施する学校が増加していることに伴い、指導方法や児童の学習状況の把握に関する共通理解が課題となっている。
- コース選択の初期の段階である3年生の児童は、ほかの学年の児童より「自分の選んだコースに満足している」割合が低い。児童の約35%が自分の希望したコースで学んでいるという意識をもてず、授業にも満足していない。適切なコース選択の工夫が課題となっている。

#### イ 授業モデルの提案

マイタウンティーチャーとの習熟度別少人数学習を効果的に実施するため、教員間の指導方法や指導技術の向上及び共通理解を図る機会を構造的に設け、児童に確かな学力を身に付けさせる学習指導を工夫する体制づくりを提案する。

教員間の共通理解を促進するために、TTと習熟度別少人数学習とを組み合わせた授業を実施する。また、児童の授業への意欲を高めるコース選択の方法を示すことも必要である。このことを踏まえた授業モデルを示す。

#### ウ 授業モデルの実践

対象	太田市立鳥之郷小学校 第3学年(2クラス50人) 習熟度別少人数学習
期間	平成18年11月13日～12月7日 13時間
単元名	かけ算のしかたを考えよう
授業者	長期研修員 青木 京子

#### エ 授業づくりのポイント

##### (ア) 共通理解を促進する指導体制の工夫

図18に示すように、単元の学習において、TT(a)、2コース設定の習熟度別少人数学習(b)、3コース設定の習熟度別少人数学習(c)を構造的に行うことで、実際の指導場面で互いの指導技術を高めたり、児童の学習状況を把握し合ったりすることができる。また、すべての教員が学習を主導する場面を設けることができ、指導方法や評価の共通理解を深める上でも効果的である。

##### (イ) 児童の適切なコース選択のための工夫

- 学習の理解度だけでなく、学習の進度に対する適性、次時以降の学習の見通しなど、コース選択の判断材料にする。
- コース選択に戸惑う児童には、自己評価をさせ、判断の目安にする。
- 小單元ごとにコース選択の機会を与えるために、小單元ごとに学習の進度をそろえる。

#### 授業実践の成果

- 教師間において指導方法や児童の学習状況の把握が共有化され、短時間で質の高い打合せができ、児童の学習意欲の高まり、学習内容の理解の深まりにつながった。
- コース選択において、コース変更の目安となる判断材料や点数化などを工夫したことで児童の自己理解が図られ、適したコースを選択する力を育てることができた。
- 適したコースで学習することは、授業への満足感につながる。